

JICHA ジャーナル創刊の祝辞

中村 安秀¹⁾

1) 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

国際小児保健研究会 (Japan International Child Health Association : JICHA) のオンライン・ジャーナルである、JICHA Journal の創刊、誠におめでとうございます。堀 浩樹編集長をはじめ、関係者の方々のご尽力の賜物と厚く感謝申し上げます。

思えば、国際協力に関心をもつ小児科医が一堂に会したのは、1995年3月に岐阜で開催された第98回日本小児科学会が最初でした。三重大学小児科の櫻井 實教授 (当時)、東京女子医大の小早川隆敏教授 (国際環境・熱帯医学)、そして私 (当時は東京大学小児科講師) が中心となって、海外での活動経験をもつ小児科医に呼びかけた私的な「集い」にすぎませんでした。しかし、途上国の子どもの感染症、予防接種、母子保健、そして国際協力活動の大変さと楽しさ、日常の診療や研究の中ではなかなか口にはできない話題や関心を、深夜まで口角泡を飛ばして語り合ったことを覚えています。いま振り返ってみれば、国際協力に関心をもつ少数派 (マイノリティー) の小児科医としてのレゾンデートル (存在意義) を確かめる場であったのかもしれない。

それから、十余年。多くの方々の開拓者スピリッツと熱意に支えられて、JICHA (国際小児保健研究会) は会員数 200 名近くとなり、おかげさまで 2006 年 1 月には日本小児科学会の分科会として承認をいただきました。JICHA は、「子ども、健康、国際」をキーワードとして、途上国における国際保健医療協力や小児保健医療に関する研究調査、活動、評価などに関する実践的研究を遂行してきました。「国際保健活動の計画・実施・評価に関して自由に議論する場を提供し、世界の子どもたちの健康のために邁進する」という目的のもと、日本小児科学会総会および日本国際保健医療学会に合わせ、年 2 回の定期研究会を開催しています。研究会では多彩なゲスト・スピーカーに講演をいただき、地道な活動を継続し、ホームページ上で研究会の経緯やその内容を提供し、研究や活動内容の公開にも力を注いでいます。2009 年 4 月の日本小児科学会総会 (奈良) における JICHA 研究会では、立ち見の方もできるくらいの大盛況でした。会場からあふれんばかりの熱気のなかで、国際協力を通じた世界の子どもたちのために、ますます活発な活動を行なっていきたいと痛感しました。

このたび、JICHA Journal の創刊にあたり、「援助は人のためならず」という言葉が浮かんできました。近年、途上国の国際保健医療協力の現場に行くと、いままで知らなかった事実を教えられ、新鮮な発想や新しい気づきを与えてもらう機会が少なくありません。日本の側にこそ、途上国から学ぶべき点がたくさんあります。途上国の小児保健医療の現場は日本の小児医療を見直すきっかけになるのではないだろうか、と思うようになりました。

都市化と高齢化という戦後のわが国がたどってきた少子高齢化社会における小児保健医療の課題は、急速に TRF (合計特殊出生率) が減少しているアジア諸国ではすでに現実の課題となっています。また日本国内に目を転じて、国際結婚の増加により、出身国の文化やコミュニティを尊重しつつ、日本社会の中でどのように出産し、子育てを行うかということが大きな課題となっています。いいかえれば、多民族および多文化共生社会における小児保健医療のあり方が問われているといえます。

子どものための国際保健医療協力という特別の活動分野があるわけではありません。日本の子どもの健

康を守ることも、途上国の子どもの健康を増進することも基本的には同じこと。日本国内とグローバル世界の壁のない、子どもたちのための保健医療のネットワークが必要です。そして、日本の小児保健医療の経験を国際協力の現場に活かし、また、途上国での貴重な国際体験を日本の小児の健康の向上に還元することが求められています。

まさに、**JICHA Journal** は、国際協力を志す保健医療関係者だけでなく、国内の地域医療に取り組む人びとにも大きなヒントとなることを確信しています。「子ども」「国際協力」「保健医療」をキーワードとした斬新な専門誌として、世界に羽ばたくことを期待しています。

氏名：中村安秀（なかむら やすひで）Yasuhide NAKAMURA
職名：大阪大学大学院人間科学研究科国際協力学講座 教授
連絡先：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2
大阪大学大学院人間科学研究科
Tel : 06-6879-4033 FAX : 06-6879-8064